

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	岩手県観光協会事業			事業コード	1550
所属コード	132000	課等名	商工観光部観光課	係名	
課長名	村山 悦男	担当者名	菊池 史仁	内線番号	3726
評価分類	<input type="checkbox"/> 一般 <input checked="" type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 岩手県観光協会負担金事業 (002-02)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 12 年度	
根拠法令等	なし			

### (2) 事務事業の概要

岩手県下を対象として観光事業を展開する岩手県観光協会の事業運営、組織の強化を図るため、経費の一部を負担する。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

岩手県観光協会の事業企画、組織の強化を図るとともに、盛岡市の観光振興を図ろうとするもの。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

東日本大震災の影響や景気の低迷による観光客の減少。岩手県観光協会と岩手県、各市町村及び観光団体の連携を図りながら事業展開していくことが必要となっている。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

岩手県観光協に加盟する市内の観光関連業者、岩手県を訪れる観光客。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 岩手県観光協会に加盟する市内の会員数	人	92	92	92	92	92
B 岩手県観光客入り込み数	万人 回	3,752	2,787	3,000	未集計	3,000
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

岩手県観光協会の運営・活動費等に対する負担金の交付及び指導を行う。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 修学旅行誘致説明会	回	5	6	6	6	6
B マスコミ招待会	回	3	3	3	3	3
C 会議等出席回数	回	11	10	10	10	10

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

岩手県観光協会の業務がスムーズに遂行されることにより観光客を確保する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 盛岡市への観光客入り込み数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	万人 回	459	444	472	466	490
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

## (7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	2,978	3,030	3,082	3,082
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	2,978	3,030	3,082	3,082
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	100	120	120	120
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	400	480	480	480
計	トータルコスト A+B	千円	3,378	3,510	3,562	3,562
備考						

## 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

### (1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

#### ① 施策体系との整合性

旅行商品造成をはじめ、全県で観光誘致に取り組むことにより盛岡への観光客入込数が増加する。

#### ② 市の関与の妥当性

観光と物産の振興は観光団体だけでなく、行政が果たすべき大きな役割がある。また、これらの振興は市の重要施策となっている。

#### ③ 対象の妥当性

市内の観光関連事業者が加入している。

#### ④ 廃止・休止の影響

盛岡市だけの観光客誘致には限界があるため、岩手県全体で誘致事業を実施する必要がある。

### (2) 有効性評価 (成果の向上余地)

盛岡市の観光振興策及び関連事業について、当団体に積極的に要望を行う。

### (3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

観光産業が根付いているとは言えない岩手県においては、現状では行政及び先駆的な観光関連団体 (民間) が費用負担するのが妥当である。また、観光客増加による果実が当団体会員のみならず、市全体に波及するのが望ましい。

### (4) 効率性評価

すでに最小限の人員体制で事業を実施している。また、当団体の事業遂行に必要な経費は、岩手県や県内各市町村、観光関連団体が一定の割合で負担しているものである。

## 4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .

### (1) 改革改善の方向性

平泉世界遺産登録やいわてDCが実施されている状況を鑑み、今後ますます広域観光の重要性が増すことから、さらなる連携強化を図る。

### (2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

本県の観光振興に当たっては、広大な県土面積を有することによる内陸部と沿岸部の交通アクセスや、県内の各観光地間の連携が不可欠なことなどが課題として挙げられる。このため、協会事業による誘客効果が全県に及ぶように、二次交通の整備促進を図るとともに、県内各地域の連携を一層強め、広域観光・滞在型観光を推進する必要がある。

## 5 課長意見 . . . . .

### (1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

### (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

県内の自治体をはじめ観光関係団体が加盟している大きな団体であり、団体の事業効果に大きく期待されることから、震災の風評被害の克服のため一丸となって取り組む必要がある。